

情報セキュリティ対策 「自己宣言」で第一歩を



セキュリティ対策自己宣言

2段階のロゴマークは
セキュリティ対策の証

「SECURITY ACTION」は、中小企業自らが情報セキュリティ対策に取り組むことを自己宣言する制度。企業は、実施度合いに応じて「一つ星」と「二つ星」のロゴマークを、ポスター、パンフレット、名刺、封筒、会社案内、ウェブサイト等に表示できる。詳しくは<https://www.ipa.go.jp/security/security-action/>で確認を。



サイバー攻撃に 中小企業も注意
中小企業の経営戦略においてもITの活用が欠かせない時代になって随分経ちますが、年々増加しているのがサイバー攻撃です。「大企業ではないから関係ない」と高をくへていると、取り返しのつかないダメージを負ってしまう可能性があります。

「意識」を持って 基本的な対策から
近年では攻撃の方法が多様化しているものの、やはり気を付けたいのは「メール添付ファイルなどを介したウイルス感染。ウイルスに感染して情報が流出してしまうと、業務に支障が

それでは、どのように情報セキュリティ対策を行っていくべきなのか。カギは経営者や従業員の「意識」です。意識が低いと、対策は難しくなってしまいます。目指すことが大事です。

「コストがかかる」は つくられたイメージ
出ただけでなく、企業全体の評判も落ちていかねません。大企業も対象となる調査ではありますが、2016年における個人情報漏えいの想定損害額は、1件あたり平均で6億円以上に上ると報告されています。昔日本ネットワークセキュリティ協会が発表した「個人情報漏えい被害調査」によると、被害総額は約100億円に達しているとのことです。

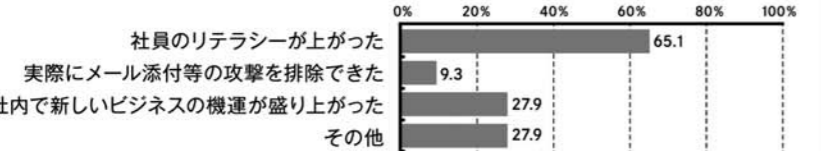


慶應義塾大学政策・メディア研究科特別招聘教授
株式会社ドワンゴ取締役
夏野 剛氏
早稲田大学政治経済学部卒業。東京ガス入社後、ベンシルパニア大学経営大学院に留学。ベンチャー企業副社長を経てNTTドコモ、「iモード」を立ち上げ、ビジネスウィーク誌にて「世界のeビジネスリーダー25人」に選出される。執行役員を務めたのちに退社し、現在は大学教授のほかにも多数の企業の取締役等も兼任する。

現代のビジネスにおいては、ITを駆使してチャンスを生む「攻め」だけでなく、万全の情報セキュリティ対策でリスクに備える「守り」も重要。日本のIT業界を牽引してきた夏野剛氏に情報セキュリティについて話を聞くとともに、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）の制度「SECURITY ACTION」を活用して対策に取り組む中小企業へインタビューを実施した。

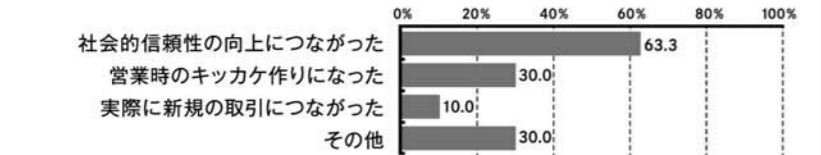
「SECURITY ACTION」自己宣言事業者へのアンケート調査結果

Q 取り組みによって社内的な効果を感じている場合、具体的にどのような効果がありましたか？



攻撃の排除もさることながら、社員の意識やリテラシーを向上させる効果が最も大きいことが分かる。

Q 取り組みによって対外的な効果を感じている場合、具体的にどのような効果がありましたか？



ステークホルダーに対するイメージアップを実現しており、取引の実現に寄与しているケースも見られる。

自己宣言制度が 取り組みの指針に
そんな情報セキュリティ対策の第一歩として活用してほしい制度が「SECURITY ACTION」(左参照)です。「二つ星」の要件である「情報セキュリティ5か条」は、先ほど挙げたような簡単な内容ばかり。「二つ星」になるためには「五分」でできる「情報セキュリティ自社診断」で自社の状況を把握し、情報セキュリティポリシー(基本方針)を定めることが必要です。

業務を妨げずに リスクの回避へ
情報セキュリティ対策を実施する際に注意すべきポイントもあります。それは「システムの使いやすさ」を担保したままセキュリティを強化することです。がんじがらめの対策をしてしまえば、システムが使いにくくなってしまえば、問題。例えば、あまりにも長いパスワードなど、従業員も覚えきれません。担当者も覚えきれません。担当者も覚悟を強めて、通常業務にも精通している人材を起用し、総合的な判断ができるようにすることをおすすめします。

〈情報セキュリティ5か条〉

- 1 OSやソフトウェアは常に最新の状態にしよう!
- 2 ウイルス対策ソフトを導入しよう!
- 3 パスワードを強化しよう!
- 4 共有設定を見直そう!
- 5 脅威や攻撃の手口を知ろう!

ITはビジネスを加速させるための大きな武器です。その武器で自分が怪我をしたら、刀に刺さるような、バランスよく攻守を両立させたIT経営を心がけましょう。

SECURITY ACTIONで、企業の価値を守り、高める

case3

次なるステップへの布石

◆事業内容
システム開発事業等
従業員数
28名(2018年2月現在)

センターフィールド株式会社
代表取締役
富田 祐子 氏

「SECURITY ACTION」は次のステップへ

10年ほど前に「プライバシーマーク」は取得しましたが、「もっと広い範囲の情報保護を」が、この「SECURITY ACTION」の「二つ星」の取り組みを行いました。宣言後はすべての社員を集めて自己診断の結果を共有。情報セキュリティ対策は、一過性ではなく継続することが重要なので、非常に良い指針になったと思います。

「SECURITY ACTION」は次のステップへ

case2

「選ばれる会社」を目指して

◆事業内容
電気通信事業等
従業員数
38名(2017年12月現在)

株式会社コーセイ
代表取締役
山田 晋司 氏

「SECURITY ACTION」の「二つ星」を取得。自社診断の結果は100点満点中90点とまずまずの結果でしたが、課題も見えてきました。この取り組みは、同業他社との差別化を図るためにも有効で、今後は市町村入札の参加条件になることも期待しているんです。すでに、ロゴマークを掲載しているWebサイトから業務依頼が増えています。具体的な対策もどんどん進めており、技術的には特定のUSBを挿入しなくてはPCの操作ができなくなる「USBロックキー」などを導入。人的には通常業務にも詳しい総務部の部長を情報セキュリティ担当者に任命し、全社員への教育も行いました。

case1

まずは「一つ星」からスタート

◆事業内容
防災・空調システムの専門メーカー
従業員数
105名(2018年2月現在)

株式会社三功工業所
代表取締役社長
三ツ橋 一弘 氏

「SECURITY ACTION」の「一つ星」を得るため

「SECURITY ACTION」の「一つ星」を得るため、情報セキュリティに関する専門的な知識を持たない当社にとって「渡りに船」の存在となったのが「SECURITY ACTION」です。まず「一つ星」を得るために取り組んだのが「情報セキュリティ5か条」です。低コストで行えるのがありがたかったですし、どれも

時間や手間がかかるものでありませんでした。名刺にロゴを反映したので、お客様にもしっかりとアピールしたいと思っています。

自己宣言を通じて意識が高まったこともあり、情報セキュリティについての社内アナウンスや教育にも着手しました。電子カタログの整備や製品の。コマース化を進めているので、万全の体制を整えていきたいですね。